

Q1-3



★☆☆

そりのあるかたち ⑤

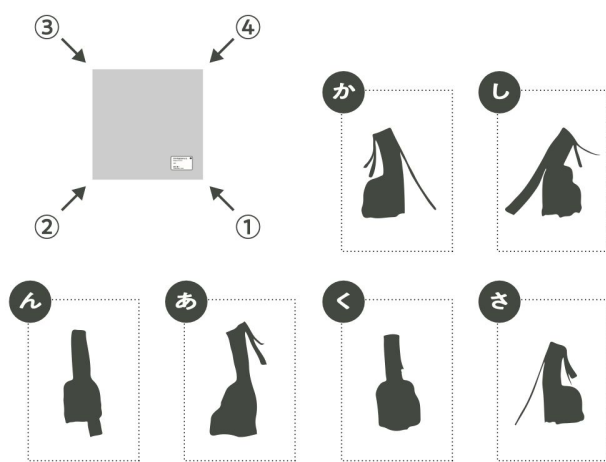
Shape of Curve

1986

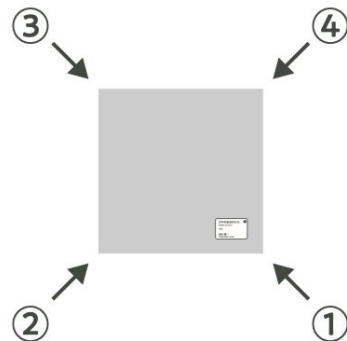
澄川 喜一
SUMIKAWA, Kiichi

をスタート地点に、
時計回りに一周回ろう。

①～④の位置から矢印の方向に見えるものを
6つのシルエットの中からそれぞれ選んで、
その文字を読んでもみよう

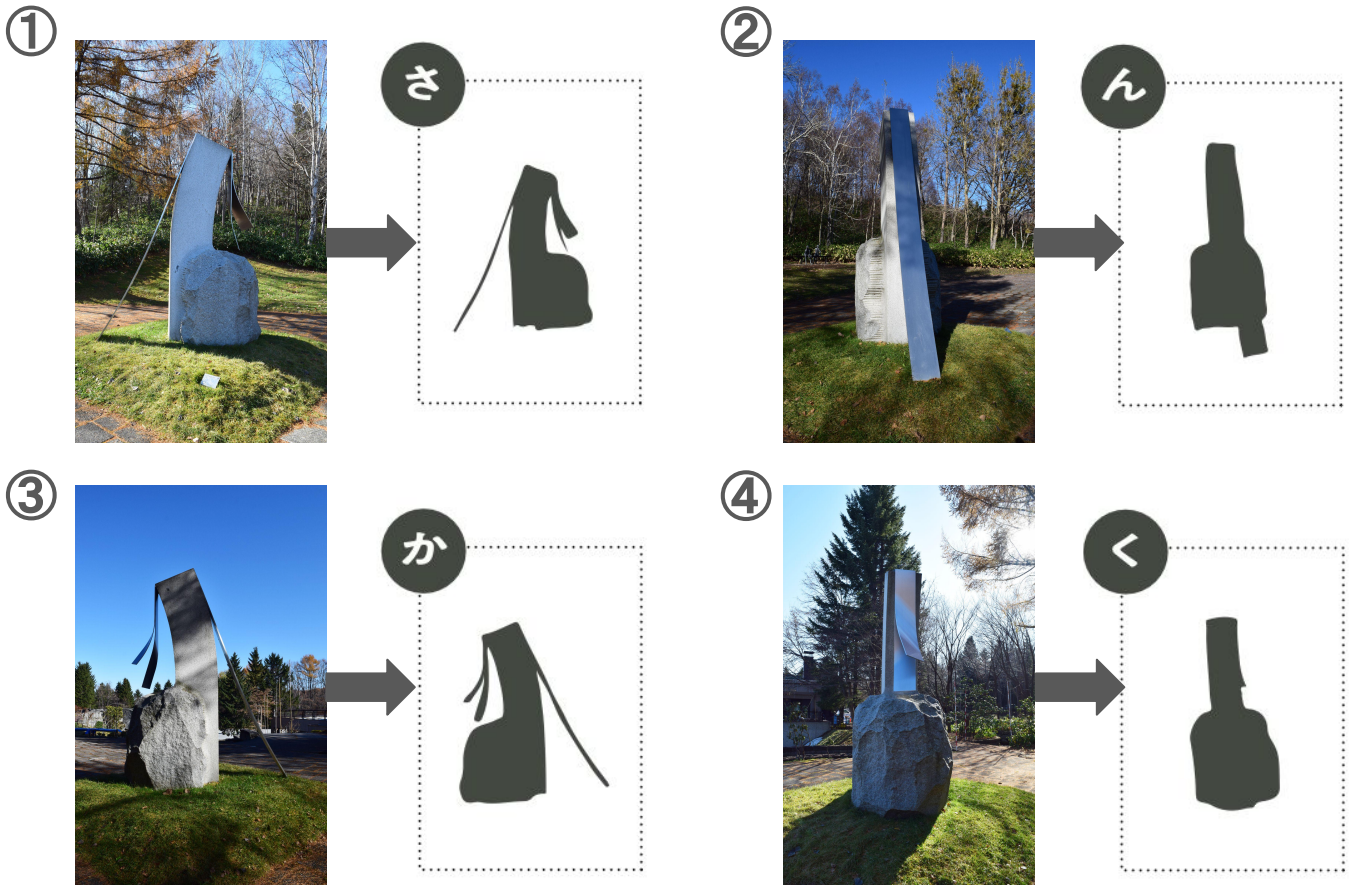


《そりのあるかたち》を見てみよう。



このグレーの四角は、
《そりのあるかたち》の下にある芝生だ。

それぞれ①、②、③、④の視点から《そりのあるかたち》を見てみよう。



よって、それぞれのシルエットにある文字を順に読むと「さんかく」。
”不思議なパーツ”は三角形を選ぼう。



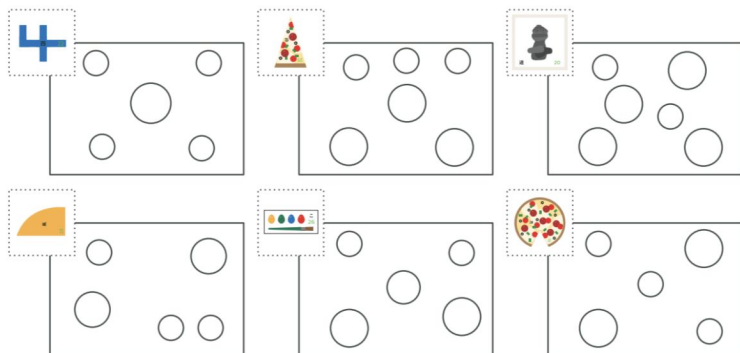
Q2-3



★★★

雲の牧場 を の位置から見て、

正しいものを選ぼう。



《雲の牧場》を、マンホールがある位置から眺めてみよう。



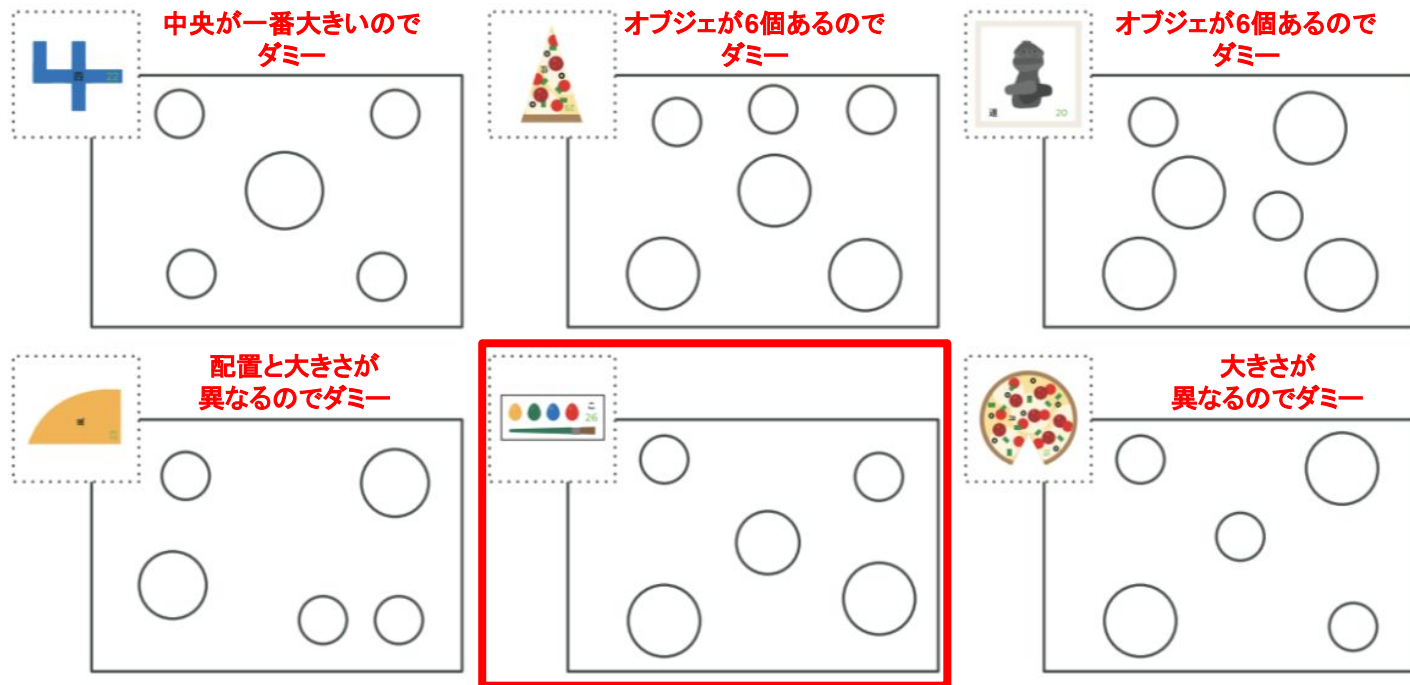
丸は、白いヨットの帆のような形をしたオブジェを示している。



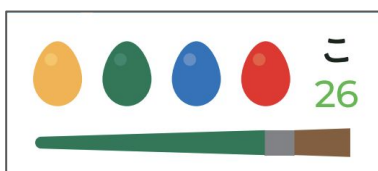
=



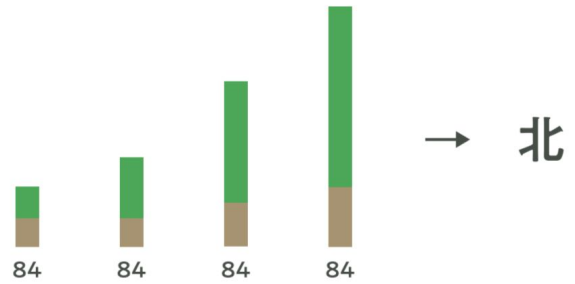
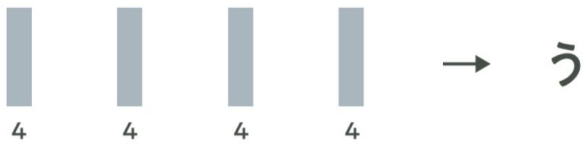
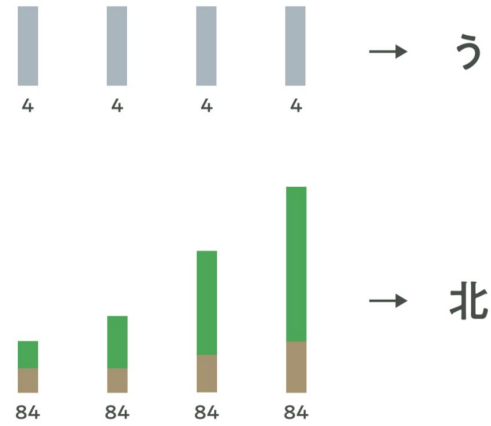
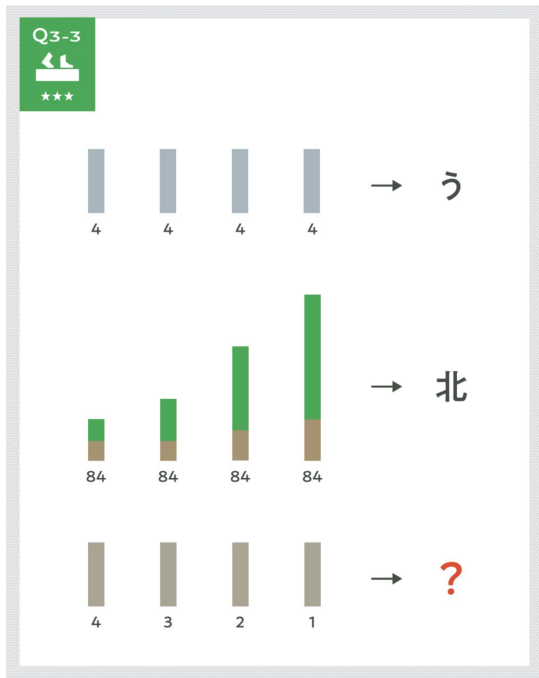
ヨットの帆のような形をしたオブジェは全部で5個あり、配置は前方に2個、中央に1個、後方に2個である。大きさは、前方の2個が最も大きく、中央の1個がそれに次ぎ、後方の2個が最も小さい。



ヨットの帆のような形をしたオブジェの数、配置、大きさの特徴に当てはまる”不思議なパーツ”は、パレットである。



まず、この図は何を表しているのか、マップを見ながら考えてみよう。



《うつろひ》

銀色の柱が4本立っている彫刻は《うつろひ》。作品名の頭文字は「う」だ。



1986年



2025年

《北斗まんだら》

上が緑、下が薄い茶色の柱は木、そして84本立っているのは、《北斗まんだら》の赤エゾ松。そして赤エゾ松が年月が経つにつれ、ぐんぐんと成長していく様子を表しているように、図の柱は左から右へと伸びている。作品名の頭文字は「北」だ。

では、下記の図はどの彫刻を表しているのだろうか。



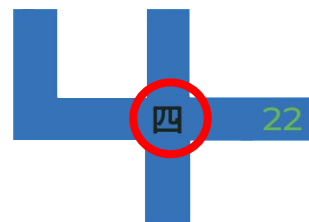
1986年



2025年

《四つの風》

年月が経つにつれ、柱の数が減っていく薄い茶色が特徴の作品は、《四つの風》である。《四つの風》の木は、1986年は4本あったが、2010年8月に1本が、2011年7月に1本が、2013年7月に1本が倒れて、2025年4月現在1本のみになっている。よって作品名の頭文字は「四」なので、「不思議なパーツ」は「四」の文字が入ったパーツを選ぼう。



Q4-3



☆☆☆

正しいものを黒で塗りつぶしたときに現れる
“不思議なパーツ”を選ぼう。

1	2	3
4	5	6
7	8	9

- のどんことはなのあな の前に 切り株が2つある
- 亜古 は足をクロスしている
- 女・夏 は裸足だ
- 風の中の道化 は とんがり靴をはいている
- 若い麒麟・堅い土 が 見つめているのは 異・空間 だ
- のどんことはなのあな から 風の中の道化 の間に 大きいマンホールが7個、 小さいマンホールが1個ある
- 異・空間 は 若い麒麟・堅い土 より大きくて 北斗まんだら より小さい
- 風の中の道化 は 両手をパーにしている
- はやぶさ(飛翔) は穴が4つある

芸術の森を回りながら、
該当する作品や風景を観察してみよう。

- 1 のどんことはなのあな の前に 切り株が2つある



切り株が2つある



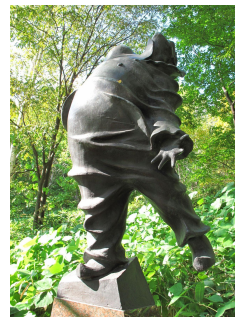
足をクロスしていない

- 3 女・夏 は裸足だ



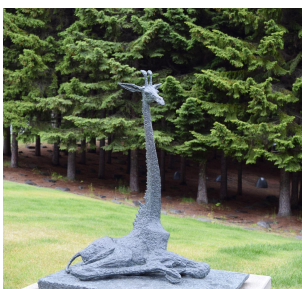
裸足

- 4 風の中の道化 は とんがり靴をはいている



とんがり靴をはいている

- 5 若い麒麟・堅い土 が 見つめているのは 異・空間 だ



《若い麒麟・堅い土》が見つめているのは《異・空間》ではない

- 6 のどんことはなのあな から 風の中の道化 の間に 大きいマンホールが7個、 小さいマンホールが1個ある

実際に数えてみると、
大きいマンホールが7個、
小さいマンホールが1個
あった

- 7 異・空間 は 若い麒麟・堅い土 より大きくて 北斗まんだら より小さい

《異・空間》は、
325.0×200.0×200.0cm

《若い麒麟・堅い土》は、
134.0×109.0×73.0cm

北斗まんだらは、
8.0～10.0×36.0×36.0m

- 8 風の中の道化 は 両手をパーにしている



両手をパーにしている

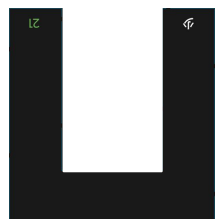
- 9 はやぶさ(飛翔) は穴が4つある



側面から見ると2つだが、
正面から見ると、2つある
合計4つある

正しいマス黒で塗りつぶすと、
不思議なパーツのカタカナのコになった。

1	2	3
4	5	6
7	8	9



Q5-3



★★★

? = Answer (こたえ)



= ① ② ③ ④

?



||

||

||

②

①

④

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

はな

さか

?



||

||

||

②

ま

①

な

た

④

か

あ

■

み

ひ

に

ち

し

き

い

ゆ

む

③

ぬ

つ

す

く

う

■

め

へ

ね

て

せ

け

え

よ

も

ほ

の

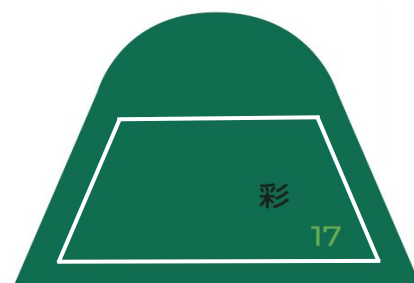
と

そ

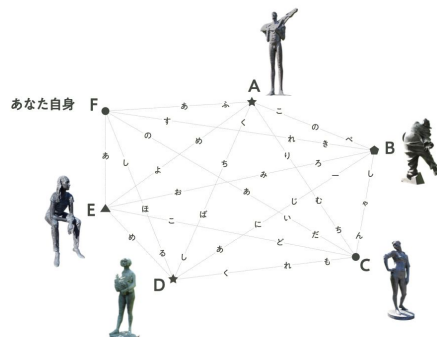
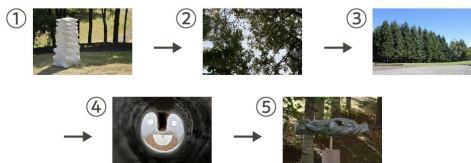
こ

お

答えは「山(やま)」。
不思議なパーツから山を表している
パーツを選ぼう。



①～⑤の写真は、
下のA～Fの誰の視界にあるものだろう。
①から順に線でたどってみよう。

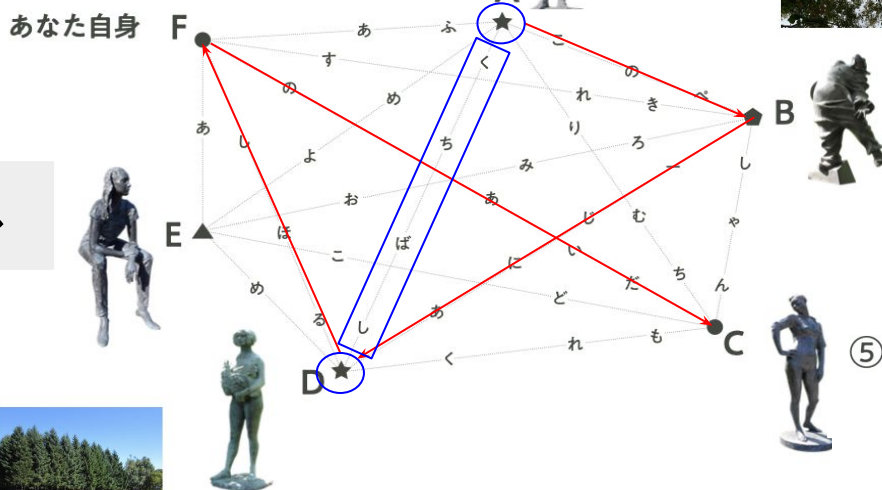


まずはAからFを特定させよう。

Aは《道標一けものを背負う男》
Bは《風の中の道化》
Cは《女・夏》
Dは《鶏を抱く女》
Eは《ふたり》の前方に座っている女性
Fは、あなた自身 だね。

AからF、それぞれの場所に立ってみると、
A《道標一けものを背負う男》からは、①《石縁》が視界に入る。
B《風の中の道化》は空を見上げているため、②《空と木が茂る風景》が広がっている。
C《女・夏》の視線の先には、⑤《浮遊》がある。
D《鶏を抱く女》は、③《北斗まんだら》を見つめている。
E《ふたり》の前方に座る女性の視界には、写真①～⑤のどれも当てはまらない。
Fに立つ《あなた自身》には、あなただけが見ることのできる景色がある。そう、④《のどちんことはなのあな》を両目で見つめた時に映る景色 だ。

①から⑤まで順番に線を繋いでみよう。



繋いだ線の上にある文字は、「このページにある星の間」だった。

では、星はどこにあるのだろうか？

AとDの点には★がついている。その間の文字を読んでもみると「くちばし」になっ

つまり、不思議なパーツは、鳥のくちばしを選ぼう。

